

令和7年度

学生委員会活動報告

新入生歓迎会（4月7日開催）

[イベント内容]

本イベントは 2025 年 4 月 7 日月曜日
14 時 40 分から 15 時 30 分に 2101 教室と
2104 教室で開催したイベント。
新入生の不安を取り除くこと、新入生同士
の交流の場、國學院大學についての理解を
深めてもらうことを目的に開催したイベン
トである。
イベント内では、國學院生の 1 日やアイス
ブレイク、國學院クイズ、フリートークとい
った様々なコンテンツを行った。



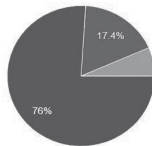
(当日について)

当日は、新入生同士の交流の場として十分に機能しており、参加者同士の会話も活発であったことから、当初設定していた目標は達成できたといえる。また、FA の方々の協力により、当日の運営も大きなトラブルなく円滑に進行した。

本番 1 週間前に急遽二教室での開催に変更となったものの、スタッフの対応は的確であり、全体の運営は安定していた。いずれのコンテンツにおいても参加者の反応は良く、会場全体が盛り上がる結果となった。

参加してみて
471 件の回答

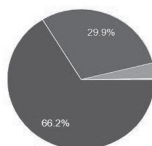
グラフをコピー



- 想像より楽しかった!!
- 思った通りだった
- 普通
- あんまり楽しくなかった...
- 参加しなければよかった

グループメンバーと交流できましたか
471 件の回答

グラフをコピー



- 沢山交流できた!
- まあまあ交流できた!
- 普通
- あまり交流できなかった...
- 交流できなかった

後記

前述のとおり、二教室開催への変更があ
ったものの、大きなトラブルもなく運営で
きた点はよかったといえる。また、私自身
が課題として認識していた新入生の誘導に
ついて、当日は円滑に行うことができ、
全体として良好な運営につながった。

(経営学科 3 年 後藤杏輔)

ゼミ個別ブース相談会

～イベント概要～

5月7日(水)12:00-16:30および5月9日(金)12:00-16:30に第1回目、6月4日(水)12:00-15:00に第2回目の、経済学部2年生を対象とした「ゼミ個別ブース相談会」を開催した。当日は5、6号館を使用し、昨年に引き続き対面開催となった。本イベントの目的は、ゼミ選びをしている2年生に対して、「ゼミについて正確な情報を得る機会を作ること」、また「ゼミの先生やゼミ生と直接話す機会を作ること」である。

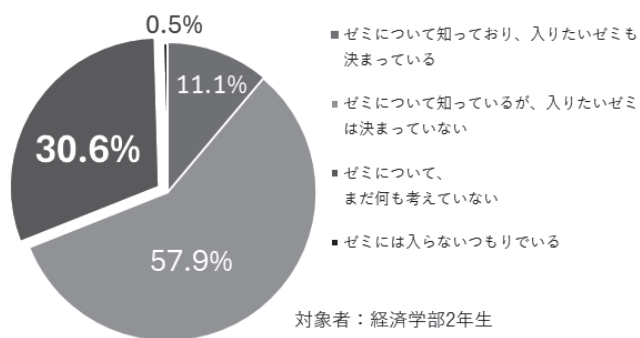
5月7日(水)、9日(金)の第1回目には26ゼミ、6月4日(水)の第2回目には9ゼミが参加した。2年生の参加者は、350人ほど(重複あり)であった。



～周りの声～

今年度は、例年に比べてイベントの周知に力を入れていたため、参加者が増加しイベント全体として賑わいがあったという声があった。しかし同時に、教室によって参加者数の偏りがあったという声もあった。

ゼミ選びに関する意識調査アンケート 結果



対象者：経済学部2年生
回答数：216人
回答期間：4月10日(木)～4月13日(日)23:59

～後記(感想)～

今年度は、例年の反省を活かした運営を心掛けていたが、想定以上に集客することができなかった。

今後は、経済学部生のゼミへの関心度にも目を向け、1年次からゼミに触れられる仕組みづくりをしていきたい。
(経営学科3年 長野拓真)

第1回E-Tour (9月20日開催)

(イベントの内容)

2025年9月20日(土)14:30~17:30、
渋谷キャンパスにて2025年度初回となるE-Tourを開催した。

本イベントの目的は、「國學院大學経済学部に入りたいと思ってもらうこと」である。参加者は、高校生37名と保護者数名だった。

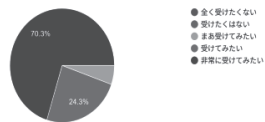
イベント内では学部・学科の紹介、アイスブレイク、キャンパスツアーや本学部の特徴であるアクティブ・ラーニング型授業を体験する機会を設けた。



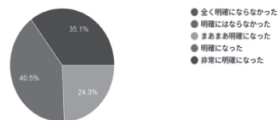
(周りの反応)

終始学生スタッフや同じグループの高校生との会話が弾んでおり、どのコンテンツも非常に盛り上がった。参加後アンケートでの「アクティブラーニング型の授業をもっと受けてみたいですか」という質問では参加者の100%が受けてみたいと回答し、ほとんどの高校生の大学生像を明確にする事が出来た。

アクティブラーニング型の授業をもっと受けてみたいですか？
37件の回答



グループワークを進める上で、自分の理想の大学生像が明確になりましたか？
37件の回答



後記 (感想)

例年より少人数での運営であったが、質を落とすことなく実施できた。特に、学生委員会に入って間もない学生も積極的に参加し、高校生との交流を行ったことが成功につながった。

(経済学科3年 高島光紗)

第2回 E-tour (11月15日開催)

～イベントの内容～

2025年11月15日(土)13:30～16:15、
 渋谷キャンパスにて2025年度第2回目となる
 E-tourを開催した。対象は、系列校3校(國
 學院久我山高校・國學院高校・國學院大學栃
 木高校)の3年生である。コンテンツ内容は学
 部紹介、学科・アクティブラーニング授業紹
 介、キャンパスツアー、模擬授業等を行っ
 た。

本イベントの目的は、高校生に E-tourを通
 じて大学生の姿を見てもらうことで、大学
 入学へのモチベーションを高めてもらうこと
 である。当日は高校生 66 名が参加し、イベ
 ントを楽しんでいた。



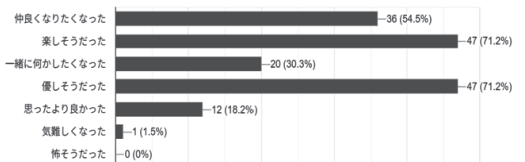
～周りの反応～

高校生も学生スタッフも会話が弾み、笑顔があふれ、どのコンテンツも非常に盛り上が
 っていた。参加者アンケートでの「E-tourは楽しかったか」という質問では95%が「楽し
 かった」と回答し、非常に満足 of いくものを開催できた。

Q12.アクティブラーニング型の授業をもっと受けてみたいですか
 66件の回答



Q17.大学生への印象はいかがでしたか(複数回答可)
 56件の回答



～後記(感想)～

2年連続のプロジェクトリーダーという立場をやらせて頂き、昨
 年度の反省点をこのイベントで果
 たすことが出来た。

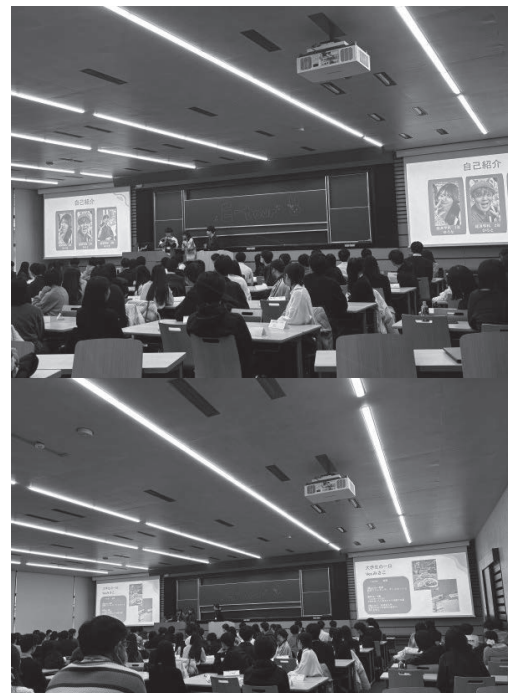
他のイベントと重なったことも
 あり、少ない人数での運営となっ
 したが、全員で協力し、高クオリテ
 ィを保ちながら成功に導いた。

(経営学科3年 田口颯汰)

第3回 E-tour (12月20日開催)

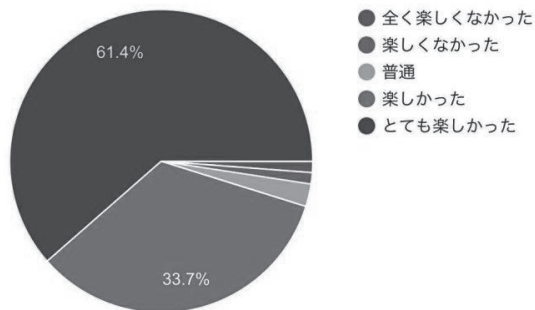
～イベントの内容～

2025年12月20日(土)14:30～、渋谷キャンパスにて2025年度3回目となるE-tourを開催した。対象は、推薦入試を終えて入学が決まっている3年生やそのほか1,2年生である。コンテンツ内容は学部紹介、学科・アクティブラーニング授業紹介、キャンパスツアー、模擬授業等を行った。本イベントの目的は、高校生にE-tourを通じて、大学生の姿を見てもらうことで自分が大学生になったときの想像がふくらみ大学生活が少しでも楽しくなることを目的としている。



(周りの反応)

高校生と学生スタッフの間で自然と会話が生まれ、終始笑顔があふれる和やかな雰囲気の中で、どのコンテンツもとても盛り上がっていた。参加者一人ひとりにとってとても満足度の高いイベントを開催することができた。



後記 (感想)

プロジェクトリーダーとして企画全体をまとめると大変なことも多かったが、高校生に楽しんでもらい、満足してもらえたことが何より嬉しかった。参加者の笑顔やアンケート結果を通して、この取り組みの意義を実感できた。

(経営学科3年浅野禾穂)

経済学部ゼミ成果発表会(12月14日)

2025年12月14日(日)、11:30~17:40に

経済学部ゼミ成果発表会が開催された。1号館の5教室を使用し、11ゼミ41グループが日頃の研究成果を発表した。各教室は発表15分、質疑応答10分で構成され、運営陣と当日スタッフ計25名の体制で円滑に進行した。今年度は、質疑応答の形式をGoogleフォームへと変更した。開催前からの参加者への呼びかけが機能し、例年と比較して非常に多くの質問が寄せられ、昨年度よりも活発な質疑応答が行われた。また、1年生への周知を強化したことで、下級生がゼミへの理解を深める好機となり、質問もゼミに興味を示す内容が目立った。発表後に若木タワー18階で行われた懇親会には、例年よりも多くのゼミから55名が参加し、会場は大いに盛り上がりを見せた。



各教室、時間帯によって聴衆の数にばらつきはあったものの、1年生も、その他ご来場された方も大変満足していただくことができた。総合的な運営や同日開催イベントとの兼ね合いの調整に関して、先生方からもお褒めの言葉をいただいた。



後記(感想)

今回のゼミ成果は共に運営に携わった安田心さん(経済学科3年)を始め、尽力してくださった方々によって、例年と比べても活発なイベントとなった。一方で、当日の導線や人員の配置など課題は多く、来年度以降に向けて経験と反省点を踏まえ、さらに良い企画立案・運営を目指す。

(経営学科3年 吉見倭斗)

就活イベント

～イベント概要～

今年から初の試みとして、就活生のモチベーション向上・不安解消を目的とした就活イベントを12月14日(日)開催した。二部制で行い、アドバイザーとして経済学部4年生・OBOGの方々計13名の方々にご協力いただいた。イベント内容として模擬面接やES添削のような実践的な就活対策、自己分析ワークや質疑応答の自己と向き合う時間・悩みを解消できる時間を提供した。初イベントということもあり当日の集客は20名ほどだったが、参加者に行った満足度アンケートでは、満足度が高かったという評価を受け、就活生の悩みに寄り添うことができた実感している。

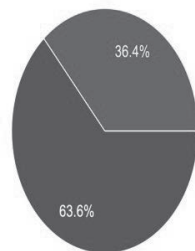


周りの声

イベントのメインターゲットとしては3年生に据えていたが、当日は1・2年生の参加者もあり、就活に興味を持ってもらえたという声があった。しかし、イベントの集客は満足いくものではなかったとの声もあった。

今回のイベントの満足度を教えてください。

11件の回答



- 大変満足
- そこそこ満足
- まあまあ
- 不満があった

後記（感想）

今まで前例のない本格的な就活イベントを無事開催できたことは嬉しく思う。しかし、集客面が一番の課題となったため、来年以降は人を呼び込みやすいような取り組みを行い、経済学部における学生委員会の存在感を強めていきたい。

（経営学科3年柴田悠貴）

広報部活動報告書

はじめに

当書面では、経済学会学生委員会広報部の2025年度の活動内容を報告する。

広報部員紹介

今年度は以下11名のメンバーで活動をした。

経営学科	3年	吉見倭斗	経営学科	3年	浅野禾穂
経営学科	4年	山形駿太	経営学科	2年	藤田美優
経済学科	2年	村井梨乃	経済学科	2年	山本博人
経済学科	2年	深澤璃青	経営学科	1年	太田綾乃
経済学科	1年	坂田崇浩	経済学科	1年	芝田優奈
経営学科	2年	江森崇人（5月より留学中）			

【年間共通】

全体目標：「全員で創る、誰かのための広報！」

定性目標：学生にとって最も有益な情報源となり、委員会を身近に感じてもらう

定量目標：Instagramフォロワー数 1,300人（年度末目標）

経済学部への認知度向上と学生への情報提供に注力した。Instagramを主軸に、新入生歓迎企画や履修登録ガイド、国学院周辺の飲食店紹介など、学生に身近なコンテンツを継続的に発信した。

特に12月のゼミ成果発表会では、リール動画や1年生向け告知スライドの作成に加え、当日の質疑応答を活性化させるための施策周知を行い、集客に大きく貢献することができた。年間を通じて組織的な情報発信体制を構築した。



年間活動実績

本年度は、従来のプロジェクト告知に加え、日常的な投稿を強化することでフォロワー外へのリーチと維持を図った。

- 4月：新入生歓迎会 集中広報
カウントダウンストーリー、教室案内リール動画、國學院クイズ等を実施。
フォロワーが901人から1,175人へ大幅に増加。
- 5月～6月：ゼミ個別ブース告知・飲食店紹介
「國學院周辺の飲食店紹介」をシリーズ化。店舗公式アカウントに再投稿されるなど、外部リーチを獲得。
- 10月：履修クイズストーリー
後期の履修登録期間に合わせ、実用的な情報をクイズ形式で発信。平均閲覧数1,300回を記録。
- 11月～12月：ゼミ成果発表会 集中広報
開催告知（4回）、リール動画、1年生向け「基礎演習用告知スライド」作成。
当日用の校内掲示ポスター作成およびカウントダウン投稿の実施。
- 1月：Winter Project（年末年始企画）
「2025年振り返り」「箱根駅伝速報」「E ツアー反応集」等をチーム分担制で投稿。

総括

2025年度の広報部は総勢11名体制となり、組織認知の拡大を活かした機動的な活動を展開した。具体的には、Instagramを主軸に、新入生歓迎企画や履修登録ガイド、國學院周辺の飲食店紹介など、学生のニーズに即した有益なコンテンツを継続的に発信した。特に12月のゼミ成果発表会では、リール動画の活用や1年生向け告知スライドの作成により、過去最高水準の集客に大きく貢献した。これらの取り組みにより、フォロワー数は年度当初の901人から281人増の1,182人に到達し、委員会内における広報部の存在意義を再確立することができた。次年度は、この発信力を維持しつつ、学部との連携をさらに深めることで、経済学部全体の活性化に寄与するコンテンツ展開を目指したい。

学生委員長の言葉

経済学会学生委員会

2025年度委員長 上田真央

2025年度の学生委員会では、年間目標として「たゆまぬ挑戦」を掲げ、活動を行ってまいりました。これまでの取り組みをさらに進展させるとともに、積極的に新たな挑戦を重ね、より一層成長した学生委員会の姿を築いていきたいという思いから、本目標を設定いたしました。今年度は、これまでに築いてきた活動の土台を生かしながら、その在り方を見直し、委員会として新たな価値を創出する一年と位置づけ、委員一人ひとりが挑戦を意識して活動に取り組んでまいりました。

その目標のもと、私たちは各イベントにおいて従来の形式にとらわれることなく、新しい内容や工夫を積極的に取り入れることに挑戦しました。単に前年の内容を踏襲するのではなく、「今年度ならではの価値をどのように生み出すか」を常に意識し、企画段階から議論と改善を重ねてきました。こうした姿勢により、各イベントにおいて新たな試みが生まれ、委員自身が目的意識を持って企画運営に関わる場面も増えました。結果として、委員会全体として挑戦を続ける姿勢を体現することができたと感じています。

また、すべてのイベント終了後に振り返りミーティングを原則として実施し、企画運営の過程や成果、課題について委員会全体で共有する体制を整えました。これにより、反省をその場限りで終わらせるのではなく、次の企画へと確実につなげる意識が高まりました。委員それぞれの視点や気づきを共有することで、多角的にイベントを振り返ることが可能となり、挑戦と改善を繰り返すサイクルが委員会内に定着していきました。初めての取り組みが多く、戸惑う場面も少なくありませんでしたが、その積み重ねによって、委員一人ひとりの主体性や委員会全体の一体感が着実に高まっていくのを実感しました。経験を組織全体の知見として蓄積できるようになったことも、本年度の大きな成果の一つであると考えています。

一年間を振り返ると、「たゆまぬ挑戦」という言葉は単なるスローガンではなく、私たちの行動や判断を後押しする原動力となっていました。挑戦を続けることの難しさと向き合いながらも、その先にある達成感や多くの学びを委員全員と共有できたことを誇りに思います。今後もこの一年で得た経験を土台として、学生委員会がより活気ある、挑戦し続ける組織へと成長していくことを願っております。

最後に、日頃より学生委員会の活動を温かく見守り、多大なるご支援とご協力を賜りました経済学部教員・職員の皆さま、各ゼミの代表をはじめとする経済学部生の皆さま、そして一年間ともに悩み、挑戦を重ねてきた学生委員の皆さまに、この場をお借りして心

より感謝申し上げます。

学生委員長の言葉

経済学会学生委員会

2025年度委員長 長野拓真

2025年度の学生委員会が掲げた「たゆまぬ挑戦」という目標は、組織を根本から再定義する原動力となりました。もう一人の委員長が述べた通り、私たちは在り方を見直し、新たな価値を創出することに注力してまいりました。しかし、組織の変革に伴い、その過程で生じる構造的な摩擦や、個々の意識の差をいかに調整し、組織を統制していくことは、運営における極めて重要な課題でありました。ここでは、委員長の視点から、挑戦を支えるための組織基盤の構築と、その過程で形成された組織文化について記述いたします。

本年度の活動を客観的に振り返りますと、組織の成長は「課題意識の高さ」に顕著に現れていたと感じております。年度当初の委員会は、伝統的な制度や運営を優先するあまり、予定調和的な活動に留まる傾向がありました。しかし、活動を進めていく中で、運営の慣習化による改善意識の硬直や、特定の委員への過度な業務負荷が常態化してしまうという、組織の持続可能性における課題が浮き彫りとなりました。これに対し、委員会は表面的な解決を求めるのではなく、教職員の皆さまや各委員が抱く懸念や知見を徹底的に共有し、多角的な視点から合意を形成するプロセスへと舵を切りました。こうした運営上の歪みを「やむを得ないもの」として見過ごすのではなく、組織全体の課題として正面から向き合い、改善を試行錯誤し続けたことこそが、予期せぬ困難にも柔軟に対応できる組織の粘り強さを育んだと感じております。

また、こうした組織の変化を支えたのは、上級生を中心とした委員一人ひとりの意識変化であったと感じております。本年度は、上級生が自ら課題や失敗を隠さずに共有し、組織全体で解決策を模索しようとする姿勢を示したことで、年次を問わず失敗を恐れずに意見を出し合える環境が育まれていきました。この姿勢は委員会全体へと広まり、組織やプロジェクト運営の課題を早期に共有しながら、解決するために互いの役割を柔軟に補完し合う体制・文化が整っていきました。

結論として、2025年度の学生委員会は、挑戦を通じて「個の成長」と「組織の深化」を同時に成し遂げたと総括できます。一人ひとりが組織の現状を自分事として捉え、課題を発見し、仲間と協力して解決する。一年間で培われた、この主体的かつ互いを尊重し高め合う組織文化が、今後も経済学部発展に寄与する活動の礎となることを願っております。

最後に、私たちの活動を常に客観的な視点から導き、多大なるご支援を賜りました経済

学部の教職員の皆さま、ならびに各ゼミ代表を始めとした経済学部学生の皆さま、そして学生委員の皆さまへ、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

令和7年度の学生委員会の活動を振り返って

令和7年度学生委員会担当教員

芳賀 英明、濱田 高彰

本年度、学生委員会は、経済学部や経済学会に協力する形で以下のイベントの実施および実施補助をしました。その他、SNS (Instagram) にて経済学部に関する情報の発信も随時行っています。

・学部学生を対象としたイベント

(1) 新入生歓迎会 (4月)

(2) ゼミ個別ブース相談会 (5月、6月)

(3) 経済学部ゼミ成果発表会・就活相談会 (12月)

・高校生を対象としたイベント

(4) 経済学部リアル体験ツアー (E-Tour) (第1回:9月、第2回:11月、第3回:12月)

※(3) 経済学部ゼミ成果発表会は、受付・司会補助・懇親会の仕切りの補助を担当。

※イベントの詳細は、本誌内の各ページをご参照ください。

令和7年度も前年に続き委員長2名体制で、学生委員会に所属する約50名の学生が主体的に各イベントの実施に向けて取り組みました。前年度までと同じイベントだけでなく、「就活相談会」を新たに実施しました。以下に、令和7年度の総括と次年度に向けた課題を示します。

令和7年度は、「たゆまぬ挑戦」という組織の年度目標を掲げ、その実現に向けて「1プロジェクト、1挑戦」、「より価値ある振り返り」、「わくわくをカタチに!」、「支え愛」、「報連相の徹底」という行動指針のもと活動を行ってきました。とりわけ、過年度からの課題であった広報の強化に注力し、SNSを活用したイベントの積極的なPRに取り組みました。その結果、参加者数も増加し、各イベントは昨年度以上の盛り上がりを見せたと感じています。また、組織内部においては、1年生の所属人数が増えたこともあり、上級生から下級生へのスキルやノウハウの共有・継承も活発に行われていました。

次年度に向けては、引き続き広報の強化に取り組むことが重要になると考えています。また、本年度実施したイベントの継続開催に加え、所属学生数の増加によって組織全体の余力も高まっていることから、新たなイベントの実施についても検討しています。一方で、組織内部では、人数の増加に伴い、個々人のタスク量や組織への関わり方に差が生じつつあり、組織全体をまとめていくことの重要性がこれまで以上に高まっています。委員

長だけでなく、複数の上級生が主体的に組織運営に関わり、全体を支えていく体制が求められるでしょう。